

## 1 研究主題

豊かな人間性や社会性をはぐくむ道徳教育の推進  
～多様な道徳授業の試みと教育活動全体で取り組む道徳教育の推進～

## 2 研究の概要

十日町市は、3年間の試行を経て今年度から全中学校区で小中一貫教育が実施された。道徳教育も小中一貫教育方針に基づき、各中学校区で「心の教育に関する指導計画」が策定された。道徳の教科化を目前に、学校教育全体を通しての道徳教育と1時間1時間の道徳授業をより魅力ある授業にしていくことが求められている。今年度は昨年度に引き続き多様な道徳授業のあり方について研究するとともに教科化に向けての動向や課題について研修を深めることとした。部員全員が集合しての一斉研修は8月22日に実施した。

## 3 研究の実際

### (1) 講義による道徳教育の動向把握

講師に新潟青陵大学中野啓明教授を招聘し、「道徳の教科化に向けての動向について」の講義を受講した。教科化の動きについてこれまでの経緯をまとめていただいた後、道徳授業が教科化することによって、誰もが授業を行える指導形態や実践を蓄積しておくことが重要になってくること、教科化に向けて準備しておくべきことを、具体例を交えながらお話いただいた。「教科書、免許、評価」の3点がどのようになるのかについても、これからの予想も含めて分かりやすく部員に講義していただいた。特に道徳の教科書ができるまでは、文科省から配布された「私たちの道徳」と副読本等の併用が基本となるので、その特性をよく理解して日常的に活用できるようにすること、熟練の教師しかできない道徳授業ではなく、初任者でもできる道徳授業の形を模索していく必要があることを強調された。

### (2) 実践発表：「私たちの道徳」を用いた授業実践・・・部員代表

昨年のPISA型道徳授業に引き続き、「私たちの道徳」をどのように授業に活用するかについて、2年生を中心とした授業実践の紹介がなされた。「私たちの道徳」は、2年間継続して使用するため、同じ内容項目を取り扱うとき、1年生時と2年生時の心の成長が見える形式になっていることを実際の授業での使用例が示された。また、評価については、数値化できるものではないという前提にたち、評価を文章でまとめる場合、このような表し方になるのではないかという想定の評価の提案もなされた。

### (3) 意見交換

小・中に分かれ、授業実践報告をもとに自校の実践について意見交換を行った。学力向上が中心で、なかなか校内研究の中心に道徳が据えられないのが現状であるが、人権教育やいじめ根絶強調週間などの機会に全校体制で集中的に道徳授業に取り組む、体験との関連を大切にして指導計画を組むなどの意見が出された。

## 4 成果と課題

参加者は、道徳の教科化が、実際にどうなるのかについて不安をもって参加していたが、講義を聴いて、見通しがもてたこと、時期が来るまではじっくりとこれまでの実践を誰もが授業できるように整えておくことの重要性を認識できた。また、部員の「私たちの道徳」の活用の実践を知ること、さらにイメージが明確になった。課題としては、①道徳教科化に関する情報提供とより質の高い研修の場の設定②部員の主体的な取組を促す実践レポートの集約・活用である。今後も部員の研修を通し郡市の道徳教育の指導力を高めていく。